

(やまだ塾:2010年9月19日掲載)

## 青春

サムエル・ウルマン

青春とは人生のある期間ではなく、  
心の持ち方を言う。  
薔薇の面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、  
たくましい意志、ゆたかな想像力、炎える情熱をさす。  
青春とは人生の深い泉の清新さをいう。

青春とは臆病さを退ける勇氣、  
安きにつく気持ちを振り捨てる冒険心を意味する。  
ときには、20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。  
年を重ねただけで人は老いない。  
理想を失うとき初めて老いる。  
歳月は皮膚にしわを増すが、熱情を失えば心はしぼむ。  
苦悶・恐怖・失望により気力は地に這い精神は芥にある。

60歳であろうと16歳であろうと人の胸には、  
驚異に惹かれる心、おさな児のような未知への探求心、  
人生への興味の歓喜がある。  
君にも吾にも見えざる駆遣が心にある。  
人から神から美・希望・よろこび・勇氣・力の  
靈感を受ける限り君は若い。

靈感が絶え、精神が皮肉の雪におおわれ  
悲嘆の氷にとざされるとき、  
20歳であろうと人は老いる。  
頭を高く上げ希望の波をとらえる限り、  
80歳であろうと人は青春にして已む。

サムエル・ウルマン、作山宗久訳『青春とは、心の若さである。』角川書店、1996年

(注)連合国軍最高司令官マッカーサーの座右の銘であった詩を、リーダーズ・ダイジェスト(1945年12月)が取り上げたことから、日本での紹介が始まったといわれる。サムエル・ウルマン(Samuel Ullman, 1840年~1924年)は、ドイツ生まれのユダヤ人で、幼くしてアメリカに渡り、若いときには慈善事業にも関与し、後半生はアラバマ州でのビジネスとともに学校も設立し、『青春』は78歳のときの作品といわれている。